

第1回 北九州市文化財保存活用地域計画 検討会議

日時：令和 8 年 3 月 3 0 日 1 3 : 1 5 ～

場所：市役所本庁舎 5 階 特別会議室 B

議 事 次 第

1. 開会

2. 挨拶

3. 構成員紹介

○自己紹介

4. 座長選出

○座長挨拶

5. 議事

（1）北九州市文化財保存活用地域計画策定事業について

（2）北九州市の歴史文化の特性について

6. 閉会

北九州市文化財保存活用地域計画検討会議構成員

* 敬称略

氏 名	所属・役職名
あらき かずのり 荒木 和憲	九州大学大学院人文科学研究院 准教授
しばた か な こ 柴田 加奈子	西日本工業大学デザイン学部 助教
みなみ ひろし 南 博	関門海峡日本遺産協議会 会長 (北九州市立大学地域戦略研究所 教授)
まえぞの ひろゆき 前園 廣幸	北九州市の文化財を守る会 理事長
うちだ あきら 内田 晃	北九州市立大学 副学長
いのうえ りゅうこ 井上 龍子	八幡駅前開発株式会社 代表取締役社長
こいし ふ み え 小石 富美恵	北九州市観光コンベンション協会 専務理事
いわさき 岩崎 ひより	北九州市Z世代課パートナー

オブザーバー

杉原 敏行 (福岡県教育庁文化財保護課参事兼課長補佐)

日比野 利信(北九州市立自然史・歴史博物館歴史課長)

02. 文化財保存活用地域計画 作成の流れ

この計画を作成・実施することにより、住民・民間団体・文化財部局・庁内関係部局などが地域総がかりで文化財を守り、いかに、伝える体制の構築を図り、文化財の存続につなげていくことが期待されています。

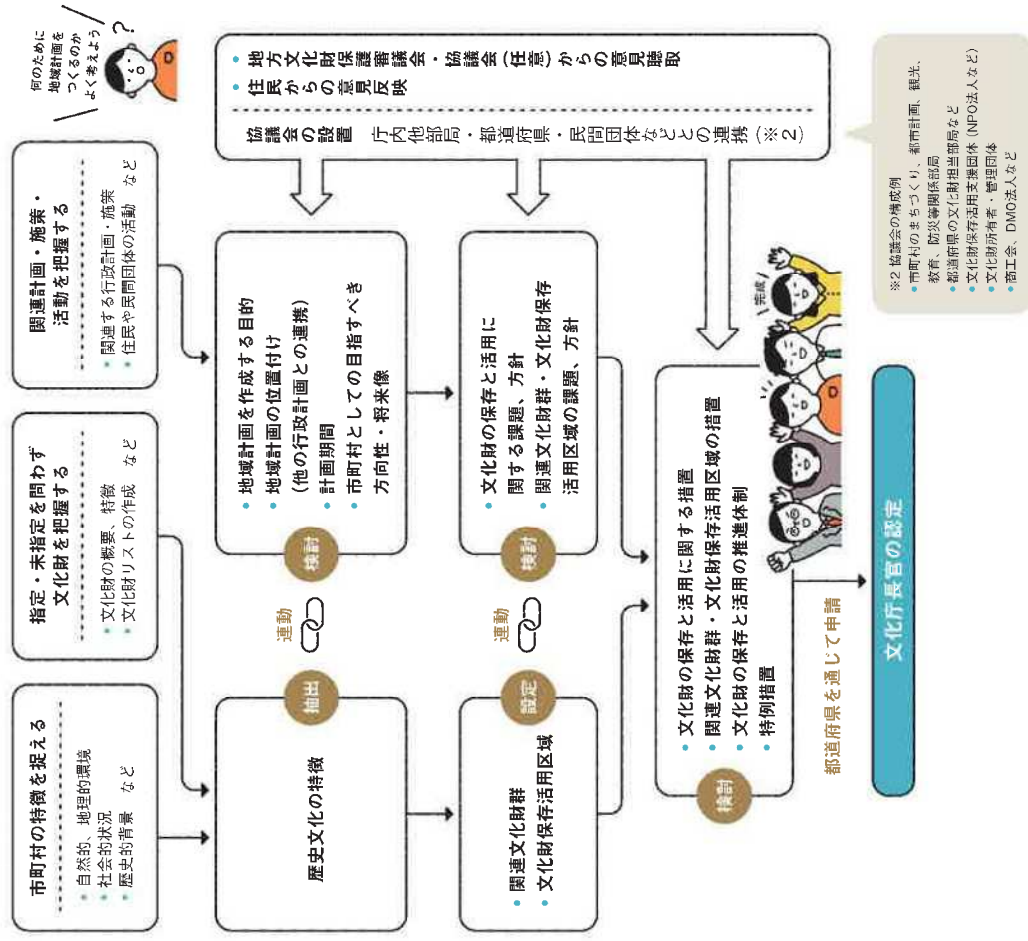


文化庁長官による認定には次に掲げる要件を満たしていることが必要です。

- ① 文化財保存活用地域計画の実施が当該市町村の区域における文化財の保存及び活用に寄与するものであると認められること
- ② 円滑かつ確実に実施されると見込まれるものであること
- ③ 文化財保存活用大綱が定められているときには、当該大綱に照らし適切なものであること

認定を受けた場合の特別措置

- ・国の文化財登録原簿への登録の推進
 - ・ボトムアップでの未指定文化財の保護の推進
 - ・町村への部署格の権限移譲
- 認定市町内における田代田清水計画の実施



04. 文化財を総合的・一体的に把握する方法

— 歴史文化、関連文化財群、文化財保存活用区域の考え方 —

歴史文化の特徴に基づき関連文化財群や文化財保存活用区域を設定することによって、域内に散在している文化財を俯瞰した保存と活用が可能になります。まちの将来像の実現に向けて歴史的・文化的・地域的な関連性やテーマによりまとまりとして捉えた文化財群、文化財が集積しているエリアとその周辺環境を面的に捉えた区域を設定し、歴史文化をいかに文化財の総合的・一体的な保存と活用につなげましょう。

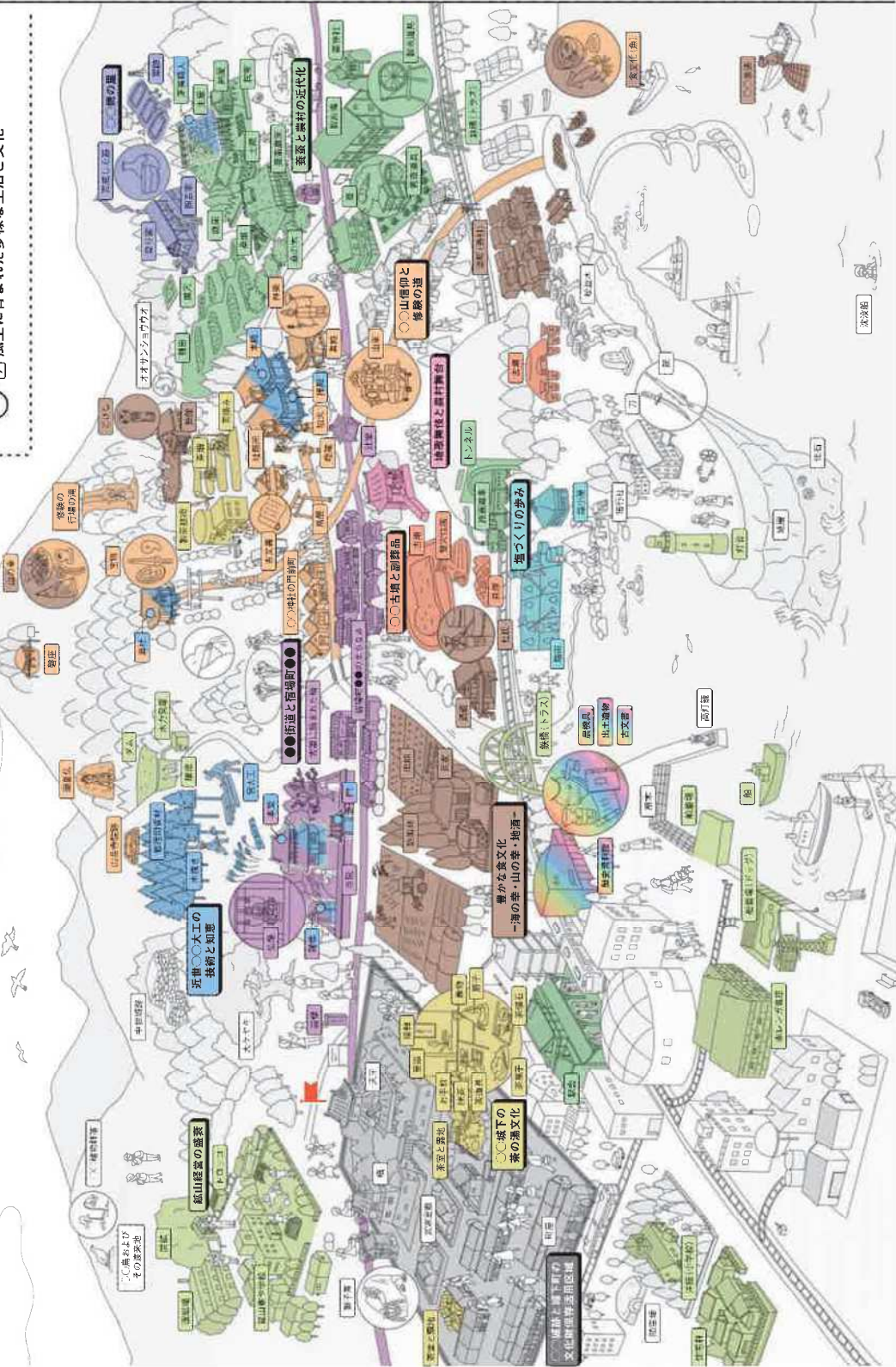
歴史文化とは

地域に固有の風土の下、先人によって生み育まれ、時には変容しながら現代まで伝えられてきた知恵・経験・活動等の成果及びそれらが存在する環境を総体的に把握した概念。地域の歴史や文化にまつわるコンテクスト。歴史文化の特徴は、地域らしさ、地域の特徴をあらわす。

1 ○○国の繁栄

- 1 ○○国の繁栄
- 2 ●●信仰により特徴付けられる信仰の固有性
- 3 ●●藩により形成された地域の骨格と文化
- 4 近代化の波—鉱山・鉄道・養蚕—
- 5 「ものづくり」の多様性と技術の継承
- 6 ●●街道を行き交う人々の交流
- 7 風土に育まれた多様な生活と文化

歴史文化の特徴の例



関連文化財群とは

指定・未指定に関わらず多種多様な有形・無形の文化財を、歴史文化に基づき関連性、テーマ、ストーリーによって一定のまとまりとして捉えたもの。群を構成する複数の文化財を総合的・一体的に保存・活用するための枠組。まとまりを持って扱うことで、未指定文化財についても構成要素としての価値付けが可能となり、また、相互に結びついた文化財の多面的な価値・魅力を明らかにすることが出来る。

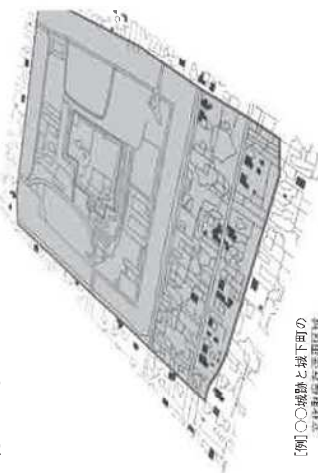
1 ○○国の繁栄

- 1 ○○国の繁栄
- 1-1 ○○古墳と副葬品
- 2 ●●信仰により特徴付けられる信仰の固有性
- 2-1 ○○山信仰と修験の道
- 3 ●●藩により形成された地域の骨格と文化
- 3-1 ○○城下の茶の湯文化
- 4 近代化の波—鉱山・鉄道・養蚕—
- 4-1 鉱山経営の盛衰
- 4-2 養蚕と農村の近代化
- 5 「ものづくり」の多様性と技術の継承
- 5-1 端つくりの歩み
- 5-2 近世○○大工の技術と知恵
- 5-3 ○○焼の里
- 6 ●●街道を行き交う人々の交流
- 6-1 ●●街道と宿場町●●
- 7 風土に育まれた多様な生活と文化
- 7-1 地歌舞伎と農村舞台
- 7-2 豊かな食文化—海の幸・山の幸・地酒—

関連文化財群の例

文化財保存活用区域とは

文化財が特定の範囲に集積している場合に、当該文化財（群）をその周辺環境も含めて面的に保存・活用するために設定するもの。域内の地区特性や歴史文化に応じて市町村が独自に設定する戦略的な計画区域。多様な文化財が集中する区域を設定して保存・活用を図ることで、魅力的な空間の創出につながる事が期待される。



例 ○○城跡と宿場町の文化財保存活用区域

資料 2

北九州市文化財保存活用地域計画工程案

年	組織	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 目	庁外									文化財関連団体協議			
	庁内									文化財保護審議会		第1回検討会 (概要説明)	
	文化庁											進捗報告・協議	
2 年 目	庁外			文化財関連団体協議									
	庁内		第2回検討会 (方針説明)				文化財保護審議会			第3回検討会 (計画案検討)			
	文化庁				進捗報告・協議							方針説明	
3 年 目	庁外					パブリックコメント							
	庁内		第4回検討会 (計画案検討)						文化財保護審議会協議			第5回検討会 (計画素案確認)	
	文化庁		計画案検討								計画素案提示		
4 年 目	庁外												
	庁内		第6回検討会 (計画案承認)			文化財保護審議会 (計画の承認)							
	文化庁			計画案承認								認定	

令和8年3月30日現在

他自治体が設定した歴史文化の特性

神戸市の歴史文化の特徴

①兵庫津・神戸港と街道が育んだ多文化共生のまち (交流の側面からの特徴)

神戸市は古来より陸海の交通の要衝であり、海外や日本各地の人やモノが集まってきました。その重要性は、兵庫県最大の古墳である五色塚古墳の建造、行基や平清盛による大輪田泊(兵庫津)の改修をはじめ、明治時代には、神戸港が海外との窓口となる開港五港として選ばれたことから明らかです。



現在では神戸空港も建設され、陸・海・空の結節点として多くの人やモノが神戸市域を行き交っています。また、ここで育まれた多様な価値観・開放性・ゆとりのある生活から神戸らしい文化や芸術が醸成されました。さらに都市部と農村部は各時代に、街道や河川など様々な“みち”を通じて繋がりをもち、交流を続けてきました。

このような歴史の中で、地域の人々が新しいものを取り入れつつ、伝統的な行事などを大切にしてきたことで、多様な文化が融合する都市が作られました。

②六甲山系と瀬戸内海とともに生きるまち (環境と文化の側面からの特徴)

瀬戸内海に面し、六甲山系や農村地域がある神戸市は、非常に豊かな自然環境に恵まれています。これらは、地域の人々との関係により形成されてきたものです。時には過度な開発による災害に見舞われる一方で、北区・西区の里山整備や六甲山の植生回復を行うなど自然環境の保全にも取り組んできました。また、自分たちの地域コミュニティが安定して営まれるために、祭礼や習俗を継承してきました。



このような人々の活動が大都市でありながら、今も伝統文化と自然に触れ合うことができる環境を守り育みました。

③復興と創造のまち (災害復興の側面からの特徴)

神戸市は平成7年(1995)1月17日に発生した阪神淡路大震災により、町の様子や人々の生活が一変しました。長い歴史の中で数多くの合戦や阪神大水害、そして神戸大空襲などの様々な災害に見舞われてきました。



しかし、神戸市はこれらの災害に見舞われる度に復興を果たしてきました。現在も地域に多くの文化財が伝えられているのは、復興の過程で人々の暮らしにとって大切なものとして意識され、守られてきたからです。そこから得られた経験や知識を活かし、文化を創造し発信しています。

川崎市の歴史文化の特徴

市域の自然環境や歴史的背景、文化財の状況を踏まえ、その特徴を5つに整理しました。

(1) 丘陵で営まれた暮らし

多摩丘陵には旧石器時代から人間の活動の痕跡が遺され、農耕が主な生業になってからも自然を活用し、人々の生活が継続的に営まれてきました。丘陵の北側は急峻な斜面で、多摩川の対岸までを一望できます。橘樹官衙遺跡群は、古代の官道に近い、眺望に優れた台地上に置かれました。中世の山城も、多摩丘陵上の多摩川の渡河点を見下ろす交通の要衝に築かれました。



小沢城（切り立った北側斜面）

(2) 水辺に育まれた地域

人々は、環境の変化や技術の進歩とともに、沖積低地へも活動の場を広げてきました。やがて網のように巡らされた用水の整備や、河川改修工事などにより豊かな穀倉地帯が生まれました。臨海部では、江戸時代中期以後、新田開発が進められ、近代には工業地帯が形成されました。工業化に伴う人口増に対応するため、上水道が整備され、このことが川崎市誕生、後の市域の拡大の一つの要因になりました。



二ヶ領用水（溝口周辺）

(3) 各時代に取り込まれてきた最先端の文化や技術

市域の古墳は、その時期の最新の文化や築造技術が取り入れられています。橘花屯倉が置かれた後には、律令体制へ続く初期の地方支配拠点である評家が置かれました。当時最先端の仏教文化が早くからもたらされ、寺院が造営され、火葬の風習が取り入れられました。戦国時代の市域を支配した後北条氏は楽市政策を進め、近世には、池上幸豊が海中新田開発や甘蔗栽培に取り組んでいます。近代では、市域に進出した大工場では最新の生産技術が導入され、大規模な事業に投資がされてきました。



馬絹古墳の石室内部

(4) 江戸を支える社会基盤の整備により発展したまちとにぎわい

家康の開東入国を契機として、市域は首都である江戸の人々の生活を支える経済圏としての役割が期待され、用水が開削され、新田開発が進められました。江戸時代中期になると、新田開発が奨励され、商品経済の発達とともに梨や柿、黒川炭や和唐紙等特産品が生まれ、ますます江戸を支える地域としての性格を強めました。江戸時代後半には、市内の各地が江戸近郊の行楽地として人々に親しまれました。



蔵造りの建物が残る大山街道

(5) 日本の近代工業化を牽引しつつ拡大・発展した都市

多摩川や東京湾の水運、鉄道といった交通の便の良さや、低廉な用地を売りものに工場用地や港湾が整備され、工場の進出が相次ぎました。工業都市化の波は昭和10（1935）年頃から南武鉄道沿線に広がり、やがて戦時体制強化のため工場は再編整備され、物資や生産工程も軍部に管理されました。戦後の復興期には石炭・鉄鋼などの基幹産業に優先的に資材や原料が供給され、市域の工業は息を吹き返しました。埋立地には、日本最大級の石油化学コンビナートが形成され、戦後日本の高度経済成長を牽引しました。



川崎臨海部の工場夜景

2 福岡市の歴史文化の特徴

「歴史文化基本構想」では、本市の歴史文化の特徴を下記のように捉えました。

海を通じた交流を軸にアジアの拠点として発展を遂げた
2000 年を超える歴史文化の重層性

歴史文化を育んだ人々をひきつける地勢

博多湾を中心として、河口部には漁業や海運業を営む浦々が、稲作に適した肥沃な平野部では早くから農村集落が形成されてきた。背後には深い山々がそびえ、農・林業、山岳寺院の造営などが都市文化を支えてきた。このような地勢は、人々をひきつけ、都市が発展する要因となっている。

2000 年間多様な文化と交わりながら進化してきた都市発展の歴史文化

金印を授けられた奴国や伊都国の繁栄、古代の外交施設である鴻臚館、中世に国際貿易都市として栄えた博多、江戸時代の福岡城下町、明治時代以降の福岡市と、各時代の社会的・歴史的状況を背景として、性格が異なる都市が重層的に形成している。

2000 年にわたる都市集積を示す豊富な文化財

大陸や朝鮮半島との交流の歴史を今に伝える文化財、現代に継承される都市基盤が整えられた近世の歴史や文化を物語る文化財、そして近代に入りアジアとの交流を背景に目覚ましい都市発展を遂げてきた現在と関係が深い文化財など、本市ならではの歴史を物語る文化財が豊富に残されている。

部門	種別	国指定	県指定	市指定	国登録	市登録	合計
有形文化財	建造物	9	11	16	43	21	100
	絵画	13	6	16	-	-	35
	彫刻	11	12	22	-	-	45
	工芸品	20 (3)	15	21	-	-	56
	書跡・典籍・古文書	11 (1)	6	31	-	-	48
	考古資料	10 (1)	16	57	-	-	83
	歴史資料	-	2	6	-	-	8
無形文化財	芸能	-	3	2	-	-	5
	工芸技術	1	4	-	-	-	5
民俗文化財	有形民俗文化財	-	17	14	-	-	31
	無形民俗文化財	2	7	21	-	24	54
記念物	遺跡	13	5	14	-	-	32
	名勝地	-	-	2	1	-	3
	動物・植物・地質鉱物	2	3	4	-	-	9
合計		92 (5)	107	226	44	45	514

■ もの
 ■ ばしょ
 ■ いとなみ

※国指定のうち () 内は、国宝の件数

市内において文化財保護法や福岡市文化財保護条例等に基づき指定・登録された文化財の数は 514 件（令和 4（2022）年 5 月現在）です。その内訳は国指定文化財が 92 件、県指定文化財が 107 件、市指定文化財が 226 件、国登録文化財が 44 件、市登録文化財が 45 件となっています。

また未指定文化財は 28,115 件を把握しています。

●久留米市歴史文化の特徴

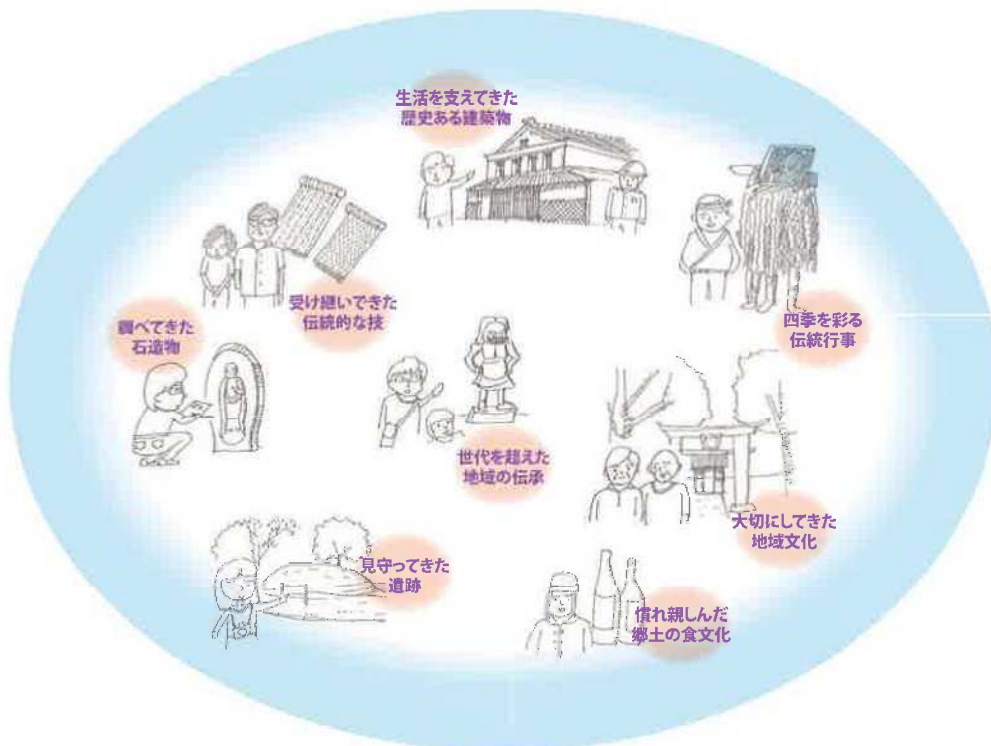
<久留米市の歴史文化の特徴>

筑後川の流れとともに生きる人々の営み

本市は、筑後川の流れがもたらす自然の厳しさや土地の豊かさ、利水によりもたらされる恩恵など、筑後川との関係のなかで歴史文化を育んできました。筑後川により形成された肥沃な筑紫平野の中央に位置する本市は、交通の要衝として多くの人々が往来し、多種多様な文物・情報がもたらされました。

原始から数多くの遺跡が営まれ、古代からは筑後地方の中心地として発展してきましたが、そこには筑後川との関係抜きには語れません。筑後川の恵みを受けながら人々は生活を営み、様々な生業や産業を生み出してきました。筑後川とともに生きるなかで、ものづくりの風土と気質が生み出され、産業や文化面で数多くの人々が活躍してきました。こうした人々の営みは世代を超えて引き継がれ、歴史遺産となって、今なお、広がり続けています。

筑後川の流れとともに生きてきた人々の営みの蓄積により、各地域に各時代の様々な歴史遺産を絶え間なく生み出し続けていることが、本市の歴史文化の特徴です。



歴史文化の特徴1：豊かな自然と連綿と続く人々の営み

九州本土と離島からなる宗像市には、玄界灘の澄んだ海、緑豊かで季節の移ろいを感じさせる四塚連山などの山々、命の源である釣川とその支流などの豊かな自然があります。長い歴史の中で、宗像の人々は自然の恩恵を受け、利用しながら連綿と生活を営んできました。遺跡や考古資料、歴史資料などの歴史文化遺産は、過去の生活の様子を物語るものです。

また、現在まで続く漁業や農業、醸造業などの伝統的な生業や産業も豊かな自然の恩恵を受けて続けられているものです。今日では、豊かな自然を次世代に継承するため、保全や維持管理の活動にも取り組んでいます。

歴史文化の特徴2：海と陸の道

宗像市は、玄界灘沿岸部に位置し大陸との距離が近いこともあり、古来より海を介した往来が盛んで、時に大陸からの玄関口としての役割を果たし、弥生時代の稲作伝播や古墳時代から古代におけるヤマト王権の対外交渉、中世の日宋貿易や近世の廻船業などにおいてその一翼を担ってきました。また陸では、古代には都と地方行政機関の大宰府を結ぶ官道が通り、近世には豊前小倉と肥前唐津を結ぶ唐津街道が整備され宿場町がつけられました。このように、宗像市では海や陸の道を介し多くの「ひと」や「もの」の往来によって形成された歴史や歴史文化遺産があり、それらが一体となって歴史文化を形成しています。

歴史文化の特徴3：受け継がれる信仰

宗像市においては、神社や寺院だけでなく、宗像四国霊場などの地域の祠をはじめ、漁村や農村の家々にも神様などを祀る場所があって、市内のあらゆる所で信仰空間を目にします。また、漁業や農業、醸造業などの生業や産業も信仰と密接に関わっています。これらの場所では、昔の記憶を今に伝えるさまざまな信仰や祭が担い手などの関わる人々によって受け継がれています。世界遺産の宗像大社にまつわる宗像三女神信仰は、宗像市にあるさまざまな信仰の象徴で、沖ノ島に宿る神への信仰にはじまり、約1,600年間守り伝えられてきた信仰です。

歴史文化の特徴4：郷土の偉人

宗像市は、歴史上の人物をはじめ、「宗像のために」と産業や教育など地域の発展に貢献した数多くの人物を輩出してきました。その背景には、宗像市では語り継がれてきた歴史を知る機会が多様にあって、郷土の歴史を身近に感じ、地域に誇りや愛着を持つ人々の基盤があったと考えられます。市内各地に数多く残る顕彰碑や現在も続けられている顕彰活動からは、郷土のために尽くした先人の偉業を讃え、その精神を受け継ごうとする人々の思いが伝わります。

●小郡市歴史文化の特徴

I 交流がもたらした歴史文化

小郡市は、日本の中では朝鮮半島や中国大陸に近く、玄界灘と有明海を結ぶ場所にあります。また地峡帯という地形の影響で、福岡平野と筑後平野の両方からひと・ものが入り出しました。九州各地や近畿地方、朝鮮半島とも活発に交流し、独自の歴史文化を生み出しました。

弥生時代初頭、朝鮮半島から福岡平野を経由して米づくりの技術が伝わり、力武内畑遺跡などで水稻栽培が始まりました。三國丘陵の一部の集落では、朝鮮半島と共通する形状の土器を作り、使っていました。古墳時代初頭には、ヤマト王権の影響を受けた地域の首長が前方後円墳を築きました。

II 交通の要衝に生まれた歴史文化

古来ひと・ものの往来が活発な小郡市には、時代ごとに新たな交通網が整備されました。沿線に集落が成立し、松崎や小郡に代表されるような賑わいが生まれ、経済活動が発展しました。交通の要衝に集結したひと・もの・情報は、相互に影響し合い、独自の歴史文化を生み出しました。

飛鳥時代に、当市と佐賀県三養基郡基山町 および鳥栖市の間に西海道(東路／大隈道)が敷かれ、「遠の朝廷」と称された大宰府と九州各地を結びました。当市には、これと直交する東西官道が整備されました。交通の要衝という立地は軍勢の通行や衝突も招き、南北朝時代から安土桃山時代にかけて九州の諸勢力が合戦を繰り広げました。江戸時代は、福岡と久留米をつなぐ筑前街道や薩摩街道、佐賀と英彦山をつなぐ彦山道が整備されました。大正時代以降は鉄道の敷設が、第二次世界大戦後は高速道路の建設が行われ、この利便が近年の大規模な宅地開発へつながっています。

III 暮らしを支える生業の歴史文化

小郡市では、弥生時代初頭の水稻栽培から農業が始まりました。宝満川の豊富な水とその流れに由来する肥沃な土地は、当市を象徴する田園風景を形づくっています。灌漑や開拓など、実りを得るための人びとの苦労と創意工夫が、独自の歴史文化を生み出しました。

米の生産力を高めるため、江戸時代に宝満川の石堰築造や溜池と水路の整備、新たな農地の開発が行われました。その一方で、地形的に農業用水の確保が難しい地域や土壌が水田に適さない地域では、木蠟の原材料である櫨をはじめ、さまざまな商品作物の栽培が試みられました。

IV 豊かな自然が育んだ歴史文化

小郡市には、宝満川とその支流、緑あふれる田園風景、鴨やコウノトリが飛来する溜池など、豊かな自然環境があります。これらは人びとに恩恵をもたらす一方、風水害の際は命を脅かすものでもありました。人知の及ばない自然への畏怖や神仏の加護を願う気持ちが、独自の歴史文化を生み出しました。

晩秋に溜池へ渡ってくる鴨は、江戸時代に獲物として重要視され、その肉は久留米藩の名産品となりました。明治時代以降は、鴨料理が観光資源として地域の経済を支えました。また、農業を生業とする人びとは、春は五穀豊穡を願い、秋は収穫に感謝する祭事を行いました。

●北九州市の歴史文化の特性に関する意見聴取シート

北九州市文化財保存活用地域計画検討会議資料

委員名 _____

①北九州市の歴史文化の特性を示す文化財を挙げてください。

※「文化財」とは、指定されているものだけでなく、地域にとって大切なものを指します。

●史跡・城跡

●建造物・街並み

●自然・天然記念物

●食文化

●祭り・芸能

●その他

②北九州市の歴史文化の特性について、自由に記述してください。

※メール又はFAXでお送りください。なお、〆切は令和8年4月30日(木)とさせていただきます。

FAX番号：093-581-5755(担当：小南)